



令和6年9月5日

各位

会社名 株式会社きんえい
代表者名 取締役社長 作田 憲彦
(コード番号 9636 東証スタンダード市場)
問合せ先 常務執行役員経理部長 藤下 修
(TEL. 06-6632-4553)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、令和6年3月15日に公表した令和7年1月期第2四半期(中間期)(令和6年2月1日～令和6年7月31日)及び通期(令和6年2月1日～令和7年1月31日)の個別業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 令和7年1月期第2四半期(中間期)個別業績予想数値の修正(令和6年2月1日～令和6年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,700	百万円 100	百万円 100	百万円 60	円 銭 21.52
今回修正予想(B)	1,795	169	171	117	41.98
増減額(B-A)	95	69	71	57	
増減率(%)	5.6	69.0	71.0	95.0	
(ご参考) 前期実績 (令和6年1月期第2四半期(中間期))	1,833	172	172	117	42.29

2. 令和7年1月期通期個別業績予想数値の修正(令和6年2月1日～令和7年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,490	百万円 210	百万円 210	百万円 130	円 銭 46.62
今回修正予想(B)	3,520	240	250	155	55.59
増減額(B-A)	30	30	40	25	
増減率(%)	0.9	14.3	19.0	19.2	
(ご参考) 前期実績 (令和6年1月期)	3,570	255	254	154	55.57

3. 修正の理由

当第2四半期（中間期）は、シネマ・アミューズメント事業において想定を大きく超えてヒットした作品が寄与したことに加え、積極的な販売促進活動を行ったこともあり、売上高は当初の予想を上回りました。また、経費全般にわたり抑制に努めたことにより営業利益、経常利益及び中間純利益はそれぞれ当初の予想を上回りました。

第3四半期以降は、シネマ・アミューズメント事業では現時点で公開が予定される映画作品に基づく収入予想の合計が当初に比べて減少する一方、不動産事業の売上高は当初予想並みの水準で推移すると見込んでおります。また、費用面では人件費ほか諸経費の増加を見込んだため、売上高及び各段階利益の見通しを当初よりも引き下げておりますが、通期の業績は当初予想を上回る見通しであります。

（注）上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる結果になる可能性があります。

また、第2四半期（中間期）の決算短信は、令和6年9月9日（月）発表予定であります。

以 上